

令和元年度第3回石狩市行政改革懇話会

日 時：令和元年 11 月 28 日（木）13：30～

場 所：石狩市役所 3 階 庁議室

出席者：次のとおり

| 委 員 | | | 職 員 | |
|-----|-------|----|-------------------|-------|
| 役職 | 氏 名 | 出欠 | 所 属 | 氏 名 |
| 会長 | 角川 幸治 | ○ | (事務局) 総務部長 | 及川 浩史 |
| 副会長 | 飯尾亜紀仁 | 欠 | (事務局) 総務部情報政策課長 | 森本 栄樹 |
| 委員 | 能村久美子 | ○ | (事務局) 総務部行政改革担当主査 | 鎌田 晶彦 |
| 委員 | 松谷 初代 | 欠 | | |
| 委員 | 上木 智子 | ○ | | |
| 委員 | 運上 昌洋 | ○ | | |
| 委員 | 東 幸子 | ○ | | |
| 委員 | 本間 貴士 | ○ | | |

傍聴人：1名

次第1 開会宣言

【事務局：森本課長】

本日は、大変天候の悪いなか、お集まり頂きまして本当に有難うございます。只今より、令和元年度第3回行政改革懇話会を開催いたします。始めに角川会長からひと言ご挨拶お願いいたします。

【角川会長】

はい、皆さんこんにちは。先日の第2回懇話会、千歳市役所へのフィールドワークということで、私もちょっと遅れたのですが、参加させて頂きまして、前段で千歳の道の駅を皆さんで見学したということなのですが、色々な感想、意見等も多分にあったと思うのです。今日の懇話会でも、意見等をいただく場面がありますので、その時に触れて頂ければな、と思います。千歳の市役所に関しては、私も非常に新鮮といえますか、アウトソーシングをされている。やっぱりあの、コンシェルジュの様な方がいらっしゃるって、市民の方を出迎えたり説明をするというのは、非常に新鮮で凄いな、という風に思いました。やはり市民の方、非常に喜ばれているんじゃないかな、と思いましたし、また見える化ですね、窓口の見える化もしっかりされていてですね、あと、従業員、職員の満足度、そして顧客というか、市民の満足度、こちらにかなり力を入れてい

らっしゃるな、というイメージがあります。まさに民間のノウハウを活用されている行政のかたちだったかな、という風に思っております。今日は第3回ということで、意見書の取りまとめが中心となります。時間は、いつもよりは掛からないかな、という気がしていますが、最終的なご意見書取りまとめに際しまして、皆さん、言い残しの無い様ですね、細かいことも含めて、是非ご意見を頂きたいな、という風に思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局：森本課長】

会長どうも有難うございました。本日は飯尾副会長、松谷委員が所用で欠席する旨、連絡を受けていますので、この場で報告させていただきます。この後の進行につきましては、会長どうぞお願いします。

【角川会長】

はい、本日の議題のメインとしてはまず、先程申し上げた様に、令和2年度における行政改革の取組について、懇話会としての意見の取りまとめ「意見書」ということとなります。まずは議題に入る前に第2回懇話会の、千歳市役所の視察について、皆様方の感想、意見を頂ければな、という風に思っています。能村さんから、ひと言だけでも、感想でも結構ですので、お願いします。

【能村委員】

そうですね、さっき会長が言った様に、印象は良かったです。そして気になったのは、やはり民間にお願いをするから安くなるという時代が終わり、民間ならではの良さを得るためには、むしろ費用がかかっていると。で、長い目で見た時に、トントンになったりはするということでしたけれども、今の時点では、お金は、むしろプラスに支出しなければならないという。私達もきっとそうであろう現実というものに対して、どんな風に、何を選択して良いまちをつくっていくのかなっていうことを、とても考えさせられました。それが私の一番印象です。

【角川会長】

はい、有難うございます。上木さん、お願いします。

【上木委員】

私、市役所という1つのところであれば、何か法律が変わった時に、すぐに窓口とかで対応、今日付で改正になって、何日から変わりますよって言うことが言えるんですけども、民間に委託となると、会社対会社、千歳市役所と富士ゼロックスという会社対会社になった時に、今までの様に、上から下にすぐって言うのがいかない。まず、会社

同士で話し合っ、そしてそれを受けた会社のお金の中の範囲で出来ることかどうか、みたいなことを話されていたので、それは私としてはビックリして、これから考える点なのかなと思いました。以上です。

【角川会長】

はい、有難うございます。本間さん、お願いします。

【本間委員】

私も、会長が言われた通り、市民の利便性という意味ではコンシェルジュみたいな方がいらっしゃって、とても良い試みだな、と思った反面、能村委員からもあった通り、コスト的には、逆にかかっているところがありますので、そこはなかなか難しいな、というところ。あともう一点は、やはり契約されていたのは、東京の大きな富士ゼロックスという会社というところですが、やっぱり、難しいかも知れませんが、地元の企業なり、商工関連の方ともタッグを組みながら、なるべく地元で循環する様なかたちが出来れば、最高だな、と思いましたけれども、そこが課題かな、と思いました。以上です。

【角川会長】

有難うございます。東さん、お願いします。

【東委員】

はい、皆さん言われた殆どのこと思ったのですけれど、あともう一点、もし外部委託をして費用が5年後にはペイ出来る、軽減出来るかもしれないとおっしゃっていましたが、であれば、行って良かった点、例えばコンシェルジュであるとか、女性職員のスカーフとかを、そのまま市役所のスタッフで真似してみる。そういうのも良いんじゃないか、と思ったのですけれども、そういう、直接市民が触れるところを、別に外部に委託しなくても、真似出来るところを真似してみる。以上です。

次第2 議題1

【角川会長】

はい、有難うございます。真似するというのは、すごく良いですね。費用だとか、色々組織的な問題もありつつ、出来ることは、是非、良いと思ったことは是非真似をして、真似をするというか参考にして欲しいな、という風に思っています。一緒に行った市職員の方も、千歳市役所の職員の方と色々意見交換をされていたみたいで、すごくそれも良いな、という風に思いました。是非採用出来るところは採用して頂きたいな、という風に思っています。それでは他、ございませんか。大丈夫ですか。

それでは次に行きたいと思います。それでは議題ですね、議題1で、「令和2年度の行政改革に対する意見」についてです。議論に先立って、事務局から事前に説明を頂ければな、と思います。

【事務局：鎌田】

行政改革2021にございます行政改革推進サイクルの中で、懇話会の意見を次年度以降の取り組みに反映し、透明性や客観性を担保することを狙いとして、懇話会からご意見を頂戴することとしております。

本日の懇話会は、この推進サイクルに沿ったものとして、開催させていただきました。以上の目的を踏まえ、ご意見について本日も検討いただきますが、事前にお送りしたものはあくまでタタキ台ですので、ご検討をお願いします。

意見書案の説明ですが、大きく総論と個別事項の形をとってございます。総論・個別事項に共通してございますが、行政改革大綱2021の原理原則に沿って、市として個別具体の施策を積極的に取り組む上での大局的な方向性を示すもの、という主旨としてございますことをご理解いただきたく存じます。その上で、個別事項については、これまでの懇話会で重点的にご議論いただいと事務局が取られえております事項と行政改革大綱2021の2つの視点、5つの重点施策を照らしあわせながら柱立てしたものでございます。ご審議のほど、よろしくお願ひいたします。

【角川会長】

はい、有難うございます。前回もやらせて頂いたのですけれども、折角なので、この意見書を読み上げてみたいと思いますので、読みながら、読み上げをお聞きになりながら、是非、お考えをまとめて頂きたいな、と思っています。

令和元年度意見書：石狩市行政改革2021の推進にあたり、令和2年度の取り組みについて当懇話会から以下のとおり意見を申し述べる。

総論：石狩市行政改革2021は、行政改革の原則を基本としつつ、時代とともに変化する市民ニーズに質の高いサービスで対応するという強い決意の下、「柔軟な組織運営」と「創造型の施策展開」を全庁組織的な共通の視点に据え、これを5つの重点施策により実現を目指す内容となっていることは当懇話会としても評価する一方、先進的な施策の実現に向けて挑戦することを期待するものである。

令和2年度においても本市を取巻く環境は変わっていくことが予想され、行政の仕事のあり方も変化が求められることになるが、行政改革2021に掲げる「2つの視点」と「5つの重点施策」を原理原則として、不断の挑戦の決意をもって行政改革を推し進められるよう期待する。

以上を基本姿勢として、以下に重点的に取り組みを期待する個別事項を述べ、当懇話会としての全体意見とする。

個別事項 1. 本市のまちづくりの根幹施策である「市民協働」は平成 14 年制定の「市民の声を活かす条例」、平成 20 年施行の「自治基本条例」を基盤として、着実に市民、行政双方に根付いており、市政の様々な場面において、多くの市民が参加している事実は大いに評価できる。さらに少子高齢化、人口減少という社会的背景を踏まえ、都市部の人材を地域の新たな担い手として受け入れする「地域おこし協力隊」へ参加する隊員も増え、隊員の活躍により地域資源の発掘や活用、地域コミュニティの活動支援が地域活性化に貢献している事は、大いに評価できる。

また、市民が主体となって地域課題を解決する試みは、活動に広がり生まれてくると感じる一方で取り組み参加者の高齢化も進んでいることにも配慮願いたい。

2. 労働力人口の減少や長時間労働による健康弊害、出産・育児・介護によるさまざまな働き方の課題が挙げられるなか国においても多様な働き方や生産性の向上などを目指し「働き方改革」における業務改善の手法として ICT の積極的な導入を進めており、この流れは加速度的に変化すると予想される。行政においても例外ではなく、多様な働き方や生産性向上に繋がる業務効率化や市民サービスの向上の観点から可能な分野における積極的な導入・検討を進めるべきと考える。

また、直接市民と接することが行政の業務の基本であることから市民との直接会話にこそ双方の理解と協力の醸成がなし得ることを行政として尊重すべきである。よって導入に際しては以上の視点も十分配慮されたい。

3. 高齢化や後継者不足により就農者が減少し担い手不足が深刻化するなか農業の持続的発展のため新規就農希望者に対して年齢制限を設けない等柔軟に受入れていることは、大いに評価する。

4. 労働力人口が減少するなか市民サービスの質を維持または向上させるため新たな価値の創出に繋がる業務委託のひとつとして窓口業務の導入効果を研究・検討を図られたい。

5. 時代変化に伴い複雑化・高度化する市民ニーズに対応する職員を組織的に育成することが必要なことから、職員の意識改革や資質向上、能力開発などまちづくりへの意欲と行動力を兼ねた人材育成に繋がる職場内外における研修の機会を増やすとともに、内容の質の充実を図られたい。

6. 近年役目を終えた学校を宿泊所やレストランへ再利用する動きが全国で広まっているなか、本市で昨年から実施されている用途廃止後の市内公共施設における民間からの活用アイデアや提案を公募するサウンディング型市場調査は、大いに評価できる。活用アイデアを基に再利用を進め、新たな賑わいと人の交流が生まれるような取り組みを図られたい。

7. 市内三地区ではサケが旬である秋に「石狩市三大秋祭り」が開催され、各地域の伝統など魅力を発信し大いに賑わい地域活性化につながっている一方、以前開催された「いしかり産業まつり（石狩まるごとフェスタ）」や「寒中石狩屋台村」などが相次ぎ

中止となっている。まちのイメージアップや地域活性化につながるイベントには、多くの期待を込めた来場者がいることを意識し、規模の大小に関わらず開催することに努められたい。

それでは、この内容につきましてご意見、ご質問等あればお願いします。細かい部分の「て、に、を、は」も含めてご意見頂ければな、という風に思っております。如何でしょうか。補足ですけどね、先程、事務局からの説明があった通り、これまでの皆さん方の意見を極力、エッセンスということで盛り込んでいるつもりです。

また、行政改革大綱 2021 の推進サイクルに位置付けされて、懇話会としてはですね、行政改革の推進に積極的に関わりながら、より良い取組をすることが、趣旨ということであります。これまでと全く変わっておりません。委員皆さんにおかれましては、この趣旨をご理解いただいて、意見書の内容を審議頂くというかたちになっております。また、大局的な説明というお話しがあったと思うのですが、皆さん方におかれましては、具体的な施策に活かしていくというイメージだと思うのですが、高所から見渡す感じで考えて頂ければ非常に有難いな、と思っております。もしよろしければ、1つずつというか、個別に進めましょう。では総論の部分ですね、総論の文面について、どうですか。運上さん、大丈夫ですか。

【運上委員】

そこについては、全体的な話しなので、いつもお話している内容なのかな、と思います。

【角川会長】

いつもお願いしている能村さん、文書の言い回し等、どうでしょうか。

【能村委員】

変わることは、ちょっと見つけられていないのですが、行政の仕事のあり方っていうところが、何かちょっと気になっていました。行政の仕事のあり方っていうのは、職員さんの仕事のあり方っていう、まず意味でしたか。それとも、もっと広い意味でしたか。

【事務局：森本課長】

当然、私達の働き、職員としての仕事のあり方っていうのもありますし、市職員の仕事には市民サービスを提供するなり、向上するっていうことで、両方含めての意味合いは、あるとは思いますが。

【能村委員】

この書いている立ち位置というのは、行政さんの立場からの言葉で良かったんですけど。であれば、今の言葉で良いのかなっていう気がするのですけれど。

でもこれ、意見書ってというのは、私達からですよ。そう思うと、えっと、上から2行目に書いてある、市民ニーズに、質の高いサービスで対応するっていう様なこととイコールなのかな。

【角川会長】

能村さんがおっしゃっているのは、行政という言葉、何だろう、職員と表現した方が良いんじゃないかな。それとも違いますか。

【能村委員】

うん、行政のあり方って、何かこう、この会で私達が普段そういう言葉の言い方をそこまでしたかなっていう辺りで、私は引っ掛かったのかも知れないですね。何か、もうちょっと優しい言葉というか、もうちょっと啾砕いた様な言葉って言えたら良いかなっていう印象で、ただその職員さんの仕事のあり方って言っちゃった時に、本来意味することを狭めてしまう可能性があるのかなっていうのは、今の説明で感じたので、市役所のあり方みたいな、大きなことである中身だったり、あり様だったりを含めてのことなのかな、と思うと、ちょっと私、それ以上自分の気持ちを上手く言葉で言えないのですけれども、市民に何ていうかな、変わっていくことが予想され、という感じではどうですか。

【事務局：及川部長】

行政が市民に対するアプローチの仕方は、職員がアプローチするやり方、市役所以外の団体、例えばNPO法人ですとか、そういった所を介してアプローチするやり方もございますので、あまり限定的に使うとやはり、職員だけの話しとなりますので、ここは今までの行政改革懇話会の流れからすると、そこだけにこだわったものではないと感じています。

【能村委員】

そうですね。市民サービスへのあり方っていう様なことでもまた、それだと狭めちゃうのですね。

【事務局：及川部長】

ざっくり言うなら、例えば、本当に行政のあり方っていう風に。

【能村委員】

むしろ、何かそれだと、広い意味だっていうところも受け止められるかな、仕事のところだと、何か対比の何処か探してしまう。

すごく広い意味でおっしゃって言いたっていうか、会長の思いとしてはどうか、私達の思いとしては、仕事の内容も含め、あり様も含めっていうところでは、むしろ行政のあり方もって言って頂いた方が、抵抗なくそこがスッといく。

【事務局：及川部長】

色んな考え方があると思います。行政と市民の皆さんとは、車の両輪であるから、片方だけで良いのかっていう考え方もありますし、ちょっと話しを蒸し返す様ですけれど。

【能村委員】

そうすると、もっと広い言葉にすると良いのかな。

【角川会長】

能村さんの今おっしゃったのは、「仕事の」っていう部分は確かに引っ掛かっているんじゃないかなって、ニュアンス的にね、行政のあり方でも良いんじゃないですかね。

【能村委員】

これで1個引っ掛かりは取れるので。

【角川会長】

では、ここは行政のあり方っていう方向ですね。

【能村委員】

もっと言葉があれば、進めて頂いて。

【角川会長】

はい、有難うございます。あと、総論に関しては無いですか。よろしいですか。

はい、じゃあ、ここは、総論についてはこれでということで、次個別事項の1番ですね。こちらはいかがですか。

地域おこし協力隊、結構注目浴びていますよね。色んなところで聞いたりもしますし。

【東委員】

地域おこし協力隊、私、選考委員となりまして、厚田の地域おこし協力隊の、来期の

選考の話で、今、ここに地域おこし協力隊、「参加する隊員も増え」となっていて、実際増えてはいるのですけれど、募集がとても少なく、何ていうか、前回は2名の募集に対して1名しか来なかったりして、実数は増えているのですけれども、応募の集まりが悪いというのが実情で、その辺がちょっと現状と見合っていないかな、という感じの書き方なのかなって、思ったのです。でも、実数は確かに増えているので、ちょっと言葉は難しいのですけれど、初回の2016年で30人くらい応募があったらしいのですよ。その頃は丁度、地域おこし協力隊って何？って、全国区で関心が寄せられていて、最近2年前ぐらいですと、知れ渡って色々な地域おこし協力隊を募集しているので、なかなか厚田が選ばれなくなってきているらしくて、2名募集のところ、1名しか来ない。何とか、どうやったら来てもらえるか、みたいな会議、この間もしたのです。

第1回の地域おこし協力隊参加者が、今の選考委員に入っていて、おっしゃっていたのが、厚田も実際に来て頂いて、住民登録する訳なのですけれど、殆どが古い家ですよ。本当に、風呂場はサンダル履いていないと、入れないくらい寒い様な家しか無いので、そういうハード面がちょっと難しいんじゃないかっていう話でした。

【角川会長】

そういうのは伝わっちゃいますから、改善されなければ、ですけれど。

【東委員】

だから、この文書に関しては、さっきも何回も言ったのですけれど、参加は増えてという風になっているのですけれど。

【事務局：及川部長】

増えている訳じゃ無いよ、と。要するに増やしているのですよ。

【東委員】

そうなのですよ。

【事務局：及川部長】

そこを使い分けた方が良くないかっていう話ですね。

【東委員】

そうですね。何かこう、どんどん積極的に流入しているというイメージではなく。

【事務局：及川部長】

自然に増えている訳じゃなくて、そういった隊員を増加させていることについては、

評価するっていう言い方で。

【東委員】

そうですね。

【能村委員】

制度を積極的に活用しているっていう部分はやっているのですよね。

【事務局：及川部長】

客観的に見て、自然と隊員が増えているっていう感じでは無くて、市が能動的に増やしているっていう部分について、評価出来ると考えてもよろしいのですね。

【運上委員】

地域おこし協力隊という制度自体、色々な課題があるので、この制度を使い地域おこし協力隊にはなるのですけれども、その先がすごく不透明なので、なかなか3年間続けられない人が多かったりとか、そういう事がみんな分かってきたので、最初は結構、地域に行きたいということで、凄い募集が全国でもあったのですけれども、なかなか制度自体も難しい制度なので、その制度を上手く行政として活用していて、どう活かすかっていうのもこれからだな、と思っていますけれど。

【角川会長】

改善ですよ。そういう意見を積極的に吸い上げてですね、「ここをこうした方が良い」、「ああした方が良い」って、出来る範囲でやるという。さっきハード面のこともありましたけれど、制度上のことで出来ることはあるとは思うのですけれどね。枠を増やす以外に、募集にしても沢山来て頂いて、その中から選ばれたというのが、やっているのだよっていう形にはしたいですよ。2名のところ1名だったら、ちょっと寂しいですよ。ここ、文書的にはどうしましょうかね。

【事務局：及川部長】

一方では、課題もあるので、そういった課題の解消に向けて努めて欲しいというのは、どうでしょうか。

【能村委員】

地域おこし協力隊制度を積極的に活用し、会員の活躍によりっていう、会員も増えるところ削っちゃってもいけるのかな、とも思いました。

【事務局：及川部長】

そうですね。

【能村委員】

でも、積極的に活用している事実は謳い、実際、隊員さんの数は、その意味では増えているという事実を拾って。

【角川会長】

募集云々はどうしますか。いれないで。

【事務局：森本課長】

今言われた隊員、実際増えているけれども、全国的に取り合っている状況もあるので、増えていかないことと、今言った環境面も、なかなかそういう住宅事情とかっていうのも、環境面の課題もあるので、そういう風なものもちょっと入れると。地域おこし協力隊の制度を積極的に活用するにあたって、隊員の活躍によって評価するけれども、一方で、募集とかという環境面の課題も見極めて、その辺も改善する。更にこれも改善されたい、みたいな感じで入れたらどうでしょうか。

【東委員】

そこまで深く入れなくても良い感じはするのですけれど。

【角川会長】

もし良ければ、実は最後にいつも申し上げているのですけれど、ご意見頂く部分は、私と事務局とで最後精査するのですよね、最後、そこの部分でお任せ頂いても良いですか。

【事務局：森本課長】

ちょっと会長と精査させていただきます。

【角川会長】

あまり細かく記述しなくても良いかも知れませんね。簡潔にというか。はい、じゃあ次に進めさせていただきます。次、ICTですね。こちらの方はいかがでしょうか。

【本間委員】

最後の方に、市民の直接会話こそ、相互の理解と書いていますけれども、ここでの直接会話というのは、市民協働につながる、関連するような団体などと直接話す場面を

設けるとか、パブコメを引き続きやっていくのかという意味でしょうか。

【事務局：及川部長】

これは確か、FACE TO FACE も大事ですよっていう、そういうニュアンスで、ご意見だったと思いますね。要するに、色んな部分で情報化が進んで、便利にはなるけれども、やはり市民との対話は、顔を付け合わせてこそ伝わるものもあるんじゃないかっていう様な意見が、委員の方から出されたと記憶しています。

【角川会長】

ICTを進める反面、アナログな部分も、ということで、パブコメとか、そういうことでは無いかな、というかですね、直接対話の部分の表現を、もし変えるのであれば可能ですよ。

【本間委員】

そういった事でありましたら、このままの表現で大丈夫です。

【角川会長】

良いですか。はい。あとはどうですか。働き方改革のところですね。よろしいですか。はい。じゃあ、後で振り返って戻っても構いませんね。次、3番ですね。こちら、新規就農希望者等の件ですね。短い文書ですけども。柔軟な対応に評価するという風には書いています。よろしいですか、はい。

【運上委員】

新規就農って、どれくらい増えているのでしょうか。

【事務局：森本課長】

平成28年度がですね、5名、平成29年度が4名、平成30年度が5名ということで、毎年5名前後くらいと、増えているという状況。今、研修生も入った様なかたちで、来年もまた就農するというので、増えて来ている状況です。

【運上委員】

評価するという形であれば、一応人数的なところ、あと、その方々が続けてもらっているという事実を僕らが把握しておく必要があるのかなと思ひまして。年齢制限が無くなって、若い人が来たり、高齢な方も来てもらっても良いとは思っています。

【角川会長】

はい、他はよろしいですか。はい、じゃあ続きまして4番ですね。こちらが業務委託について、ということですね。検討を図りたい、お願いしますということで挙げております。こちらはよろしいですか。

はい。次、5番ですね。こちらは人材育成について、ということですね。こちらもお願います。職場内外における、研修の機会を増やしております、というご意見もありましたので。よろしいですか。

はい。続きまして、6番ですね。こちらは、施設の再利用についてということですよ。

【本間委員】

サウンディング調査って、私も見させて頂いたのですが、調査して、評価出来るというのは、進展や何か実際叶ったというところはあるのでしょうか。

【事務局：鎌田】

アイデアを基に実際に形になっているというのは、まだです。

【本間委員】

ということは、調査をしたことを評価するという。

【事務局：森本課長】

取り組み自体を評価するですね。

【角川会長】

市場調査が評価出来る、と。

【能村委員】

この話して、今年閉校になるところの使い方というところで適用されたものですよ。で、あれは調査であって、実際申込の人達がありましたよね。ということは、募集を、このサウンディング型でしたということとか、提案をこのサウンディング型でしたということでは無いのですか。

【事務局：鎌田】

募集をかけて提案をいただくことがサウンディング型市場調査ということですね。

【能村委員】

そして募集はかけ募集は終わったのですよね。で、結果はまだ出ていない。提案内容を受けて何か決定事項も出ている。

【事務局：鎌田】

現在は、提案内容の公表までに至っています。提案内容をうけ事業に繋がる動きは公表されてはいません。

【能村委員】

それで表現としては、記述した内容になってしまうのですね。何かもうちょっとすると、何とかかなりそうですけれどね。なる程。どう違うのでしたっけ、サウンディング型って、今までのあり様と。募集・提案とかっていうのと、何か大きくやはり違って、何か良い点が。

【事務局：鎌田主査】

民間からのアイデアを積極的に受け入れる仕組みというのが無く、市で考えて進めるというのが多かったのが民間のアイデアを取り入れて、提案そのものを受け入れて検討していくというところですね。

【能村委員】

では、そういう意味では、それを受け止める仕組みを入れたということが評価出来るっていう様なことなんでしょうか。その辺りをもうちょっと書けば今の様な所は、もう少しこの価値というのが、まだ結果が出ていないにしても、あるっていう方向には持っていけるのですかね。

【角川会長】

今、これちょっと調べて、厚田小学校、望来小学校ですか、厚田保育園とかそんな感じですね。で、31年ですから、今年の1月に募集・応募の事業者及び団体との対話の実施って書いていますね。で、6件の応募があったということですね。

エントリー募集期間は、30年の11月20日～12月28日って書いていますね。募集要領を公表したのが、30年11月19日って書いています。去年の今頃って感じですかね、はい。で、今後のスケジュールでは、31年ですから、今年の4～6月に公募条件を検討して、7月に確定して公表している、と書いています。

【能村委員】

ということは、それで素晴らしいアイデアを頂いて、使い道、今までには無い様な使い道のものが決まっている様に感じるのは違う。

【角川会長】

実現させるかどうかというので、あるんじゃないですか。

【事務局：鎌田】

アイデアを基に実現に向けて検討しているというのが現段階です。

【角川会長】

そういう感じですよ、多分これ見ると。その先まで出ていない、と。そうですね、はい。それってどうなのでしょう。今の段階で結構なのですけれど。その後のスケジュールって、何か決まっているのですかね。7月に公募条件の確定・公表というのが、ここに出ているやつがこれだと思うのですけれど。じゃあ、その後はというのは、結構面白いこと書いていますよ、これ見るとね。美術館への活用とか、外国人留学生向けの日本語学校とかね。

【東委員】

望来小学校のサウンディングを出す時に、望来小学校に地域の人とかが集まって、話をしたのですけれど、で、2・3回やったのですけれど、最終的にやはり地域の方があまり外国人を受入れる様な施設は建って欲しくないという。私は実際、望来地域に住んではないので、ちょっと有名になってしまったのですよね。

【角川会長】

望来小学校のグラウンド、除雪車両の資材置き場。

【東委員】

そういう所が、最終的に、結局サウンディングしても、金額的なことも含めて、現実的に通るんじゃないかなってという話しで落ち着いたのですけれど。ただの倉庫になるよねっていう。

【能村委員】

ただ、そういう提案ゼロからのというか、何の縛りも無い提案を自由に出せる制度みたいなことで、サウンディングというのが、価値があるし、石狩市がそういうことを始めたということなのですかね。

【角川会長】

初めてですよ。

【能村委員】

じゃあ、その辺の言葉があると良いんじゃないですか。

【角川会長】

そうかも知れないですね。これだちょっと誤解を受けやすい、何かこう、実現に向けて「実現しますよ」みたいな。

【能村委員】

初めてそういう調査をしたから、大いに評価出来るっていう風に繋がれば、どうなのでしょうね。

【角川会長】

初めての試みですからね。

【事務局：森本課長】

今後のスケジュールに関して担当課長に確認してきました。その調査のものを受けてですね、実は首都圏にアプローチをかけて、色んな企業さんから、提案をいただいたり、色々なものを検討している様な状況で、それを受けるか受けないかというところも、様々なアプローチなりをですね、進め方を検討しているということです。

【角川会長】

はい、有難うございます。ちょっと今、ご意見出た、サウンディング型市場調査、初めて実施したということで評価するという様なところで、内容を一部修正しますか、はい。そんな様な感じで修正したいと思います。でも、この先もありそうですよね、上手くいけばね。はい。よろしいですか。最後7番ですね。こちらがイベントですね。こちらいかがでしょうか。これ、私も言いましたからね。ここは本間さん、どうですか。

【本間委員】

石狩市民も、少なからず毎年小さい頃から楽しみにしているところ、何の理由かもよく分からず、パタンと消えてしまうというのは、あまりにも市民にとって可哀そうかな、と。事情を知っている方は知っている。知っている人は良いのですけれど、それでもやはり、生まれ育っている子供達に思い入れだったり、郷土愛をもってもらうべき、石狩市のこういうお祭りというのは、絶対重要だと思いますので、各地方、地方であっても、大、小、短い、新しいも含めて、色々お祭りというのは色々あって、そういう所に、違う地域から人も来ますので、是非これはまた再検討願いたいな、と思っています。

【角川会長】

規模、小さくなくても良いのですよね。色々な事情があって、大きく出来ないのであれば、縮小でも何でも良いんです。本当に、私も言わせて頂いたのですけれど、冬祭りはもう、雪山1つ大きいのあるだけで、非常に喜ぶのですよ。勿論、安全の部分だとか、そういう所は、目配せは必要ですけれどね。私も小さい子供がいるので、「何で冬祭りが無くなったんだ」「何で花火が無くなったんだ」っていうので、良く聞かれて、私は、事情は勿論知っていますけれど、「どうしてだろうね」としか答えられないのでね。はい、有難うございます。それでは、全体を通していかがですか。

【本間委員】

すいません。戻るのですけれど、1番の個別事項の1番最後で、次のページに出て来る取組参加者の高齢化の進んでいるのも配慮願いたいということ、高齢化というのは、若年層も取り入れる、そういう取組をしたいのか、組織自体も高齢化に対応していく、シフトしていくのかという意味合いが、ちょっと見えないな、と思うのですけれど、これはどういうニュアンスでしょうか。

【事務局：森本課長】

組織の強化と、やはり当然若い方も入ってもらうという両方の面をイメージしています。

【本間委員】

高齢化というところ、やっぱり循環というか、色んな方の、こういう同じメンバーが出て来るとい、色んな方の意見を取り入れる方が良いのかな、と。見ていると、何か同じ方が参加していて、それも良いのですけれど、精通している方を取り入れていくのっていうのも良いのですけれど、新しい意見も取入れる仕組みがあれば良いな、と思います。

【運上委員】

地域課題を市民主体となって解決するというのも、とても良いことだと思うのですけれど、やっぱり市民自体の活動をしている人達が高齢化しているということで、やはりその課題を市民に、協働だからといって、全部投げていいのかという。行政としての役割も、全部やるという訳では無く、やはり今までのやり方を少し考えていかないと、駄目なのでは、ということかなと思いますので。やはり今、頑張られている方が、高齢者の方というか、元気な高齢者の方が、凄くまちを活気付かせてくれているというのは、結構事実と思うのですよね。なので、その方々、もっと高齢化していくと、そうすると、担い手もいなくなってしまうと思うので、行政は今まで通りの協働のやり方で良い

のかどうかというところを考えているかっていうのは、必要かな。

【角川会長】

今のところ、文書はどうですかね、変えられますか。良いですか。はい、分かりました。それではですね、全体を通して、今までご意見頂きましたが、確認させて頂きたいと思います。まず、総論に戻って頂いて、8行目の「行政の仕事のあり方」、これを「行政のあり方」で先程仮としていましたが、良いですかね。

【能村委員】

「まちのあり方」もって言ったら、またちょっと大きすぎて外れちゃうのですね。やはり。行政改革懇話会という中では、やっぱりここは「行政」っていうとまりで、やはり的確なんですよ。総論として言う言葉としては、やはり。

【角川会長】

でも、行政とまちのあり方の変化が求められるって、それでも良いのですけれども、どうでしょうかね。

【能村委員】

ちょっとボケてしまうかも知れない。ということで、さっきの行政というのでむしろ良いか、という気持ちが落ち着いたので、お願いします。

【角川会長】

「行政のあり方」という風に考える方向で進めさせて頂きます。次、個別の1のですね、地域おこし協力隊ですね。こちらは、もうちょっと文書変えることになると思うのですけれども、隊員が増え、というよりも、枠組が増えたけれども、募集の参加人員に課題があるという様な感じで、ちょっと変えさせて頂くということですね

【東委員】

「何か、どんどん来ている」みたいなイメージがあるということ。

【角川会長】

そうですね。課題も踏まえて、という風に代えさせて頂きます。その方向で良いですね。はい。あとは変更は無いですね。分かりました。それではですね、文書は、今後お時間を頂いて、修正を私と事務局の方でさせて頂きますが、その辺は会長一任ということでよろしいですか。はい、分かりました。有難うございます。それでは、この意見書は成案後にですね、市長までの報告を経て、今後行われる予定の組織ヒアリング、予算

編成、行政改革実施計画の各方面において尊重していただくことを、当会として要望いたしますので、よろしくお願いします。で、これ、出来上がる文書はどうしますか。

【事務局：鎌田】

各委員さんへメールと郵送でお伝えいたします。

【角川会長】

そちらの方で再度ご確認頂くような形になろうかと思えます。それでは、事務局の方から何か連絡事項ありますでしょうか。

【事務局：鎌田】

第4回懇話会は、年明けの開催となり、令和2年度版の実施計画案のご審議となります。実施時期については、令和2年度版の実施計画案がとりまとまる2月下旬から3月上旬で開催したいと考えております。近くなりましたら、委員のみなさまにメール・FAXでご都合を確認したいと思います。

【角川会長】

また候補日を選んで頂いて。はい、分かりました。あと、その他ございますか。よろしいですか。丁度1時間ということになりました。それでは、第3回行政改革懇話会を終了いたしたいと思えます。お疲れ様でした。

(閉会)

令和元年12月19日 議事録確定

石狩市行政改革懇話会 会長

角川 幸治